

SHANTI



2021.7.夏
Vol. 311
シャンティ

巻末言 道



特集

学校に行こう

カンボジアの人々と共に

シャンティ国際ボランティア会 専門アドバイザー
手束 耕治
カンボジア宗教省仏教研究所 顧問

2021年、カンボジア事務所は開設30周年を迎えた。

1991年3月、秦、名倉、手束の3名がプノンペンに到着。市内のホテルの小さな1室に事務所を開設し、活動を開始した。教育省管轄下のプノンペン市教育局職業訓練所をカウンターパートに決め、事業計画書を提出。印刷出版活動を中心にした教育・文化の復興支援事業の始まりである。

カンボジアは1975年から約4年間続いたポル・ポト政権下で、教員の8割を含む多くの知識人が殺された上に、1979年に政権が崩壊した後も、東西冷戦の影響で内戦が続き、復興が遅れた。シャンティがプノンペンに事務所を開設した当時はソ連からの援助がストップして、カンボジアは国家崩壊の経済的危機に面し、人々の生活は窮乏を極めていた。

しかしながら、人々は不安の中にも内戦の終結と平和の到来に希望を抱き、私たちの活動に熱心に参加してくれた。

振り返れば、昼夜を問わず働いてくれた第1号スタッフ。灼熱の太陽の下で職業訓練所建設に



プノンペン最大スラムでの移動図書館活動(2008年撮影)

関わってくれたワーカーたち。日本人スタッフの厳しい指導に応え、非常な努力で印刷・職業訓練所をカンボジア随一のセンターとした所長とその職員。道なき道を行き、地方の学校に図書館活動を普及したスタッフ。初めて読み聞かせと絵本の世界を自ら体験し、感動して、子どもたちにそれを伝えてくれた先生方。その先生方を励まし、サポートしてくれた図書館活動の良き理解者である教育省や地方の教育局の熱血職員。厳しい南方上座部の戒律を守りながら、慈悲と智慧をもって村人を助ける活動に率先して取り組んだカンボジアの僧侶の方々。

30年にわたり、皆さんと共に多くの子どもたちや村人に、我々の活動を通じて生きる力を届けてきたが、それはまだほんの一部でしかない。平和から開発、経済発展を迎えるカンボジアであるが、まだまだ困難な状況下にいる人々のことを忘れてはならない。これからもカンボジアの人々と共に生き、共に学びながら、シャンティの目指す社会の実現に向かって一步一步着実に進んでいきたいと思う。



SHANTI vol.311 CONTENTS

អង្គការសន្តិសុខសង្គម

- 4 緊急レポート
ミャンマーの今
- 6 開催報告
設立40年キックオフイベント
第1部 対談
「現場主義を貫いた40年」
第2部 トークセッション
「変動するアジアの今」
- 8 特集
学校に行こう
- 18 世界の絵本を読んでみよう
「ネコとサル」
ラオス 2012年
- 20 世界のおやつ旅
ミャンマーのおやつ/サーカレクエ

- 21 世界の現場からAIRMAIL
From 活動の現場 & 現地のスタッフリポート
▶アフガニスタン事務所
- 26 理事・監事が選出されました
- 28 シャンティな人たち
本多 均
ウォータースタンド株式会社 代表取締役
- 30 ファインダーをのぞいて
「女の子だって勉強したい！」
- 31 お知らせ
- 32 道 カンボジアの人々と共に
シャンティ国際ボランティア会 専門アドバイザー
手束 耕治
カンボジア宗教省仏教研究所 顧問

1991年にカンボジアで最初の学校を建設してから、これまでにアジアの事業地で400校以上の建設支援を行ってきました。この間、子どもたちが安心して学べる場所を、住民や行政の方と一緒につくってきました。

勉強ができる。友達と遊んだり教えあったりできる。子どもたちにとって学校は、文字を学び知識を得るだけでなく、他者と関わることで自身の成長にもつながる場です。現地の子どもたち、先生たちの声を通して、それぞれの事業地の学校の現状、子どもたちの学校生活をお伝えします。



今号の表紙
カンボジア・フノンベン市内の学校にて (2019年撮影)
©Yoshifumi Kawabata

今、思うこと

クーデターが起きた日は、新型コロナウイルスによる5カ月間続いた出勤制限を解除した日でもありましたが、再び在宅勤務へ。スタッフから「毎晩、明日がどうなるか分からないと思うと、体は寝ても心が寝ていない」との言葉から、心身ともに限界であることが伝わってきます。シャンティに入職して以来、1990年代にはタイやカンボジアでの政変、駐在したアフガニスタンではテロ事件が日常茶飯事。NGOの活動地において、政治や安全の不安定さと向き合うことは宿命でもあります。新型コロナウイルスの影響で、2020年6月の新学期以来、子どもたちは一度も登校していません。一日も早く学校が再開し、子どもたちが安心して過ごせることを切に願っています。



市川 斉
ミャンマー事務所 所長

最近、活動をしている村のリーダーから「教育の機会を通じて、地域の発展、ひいては国の発展のために頑張っていきたい。シャンティの教育文化支援は子どもや青年たちにとって重要であり、国の発展の一助になると確信している」とうれしい言葉をもらいました。これからはミャンマーのために良い活動を行っていきたいと強く思っていたところにクーデターが起こり、先行きが見えない状況になってしまいました。スタッフたちに何を聞けるのか、話せるのか、考える日々のなか、私たちにできることは何か、そんな話をした時です。「シャンティの基本姿勢に『苦難の中にある人々と、痛み、悲しみ、喜びを分かちあい、共に歩みます』とあるではないですか」と言われ、涙が出そうになりました。



中原 亜紀
ミャンマー国境支援事業事務所 所長

子どもたちに笑顔を届けたいと活動をしている職員の命が脅かされる現状に、何をすべきか難しい決断を迫られています。どんな状況であれ、非人道的行為は許されるべきではありません。一方、援助が途絶え、ミャンマーが国際社会から孤立すれば、子どもたちの教育の機会は奪われ、貧困に苦しむ人々はさらに厳しい状況におかれる人道危機が懸念されます。長年築き上げたものが崩れ去るのは一瞬であり、その復興は大変な道になります。私たちにはこれまで経験してきました。特に教育の復興には時間を要します。ミャンマーの次世代の育成を途絶えさせないことは、平和で公正な社会の実現に不可欠です。支援を継続できる道を、私たち国際社会は考えるべきではないかと思えます。



山本 英里
事務局長兼
アフガニスタン事務所 所長



ミャンマーの今

ミャンマー中部の都市、ピー市街地にあるLan Ma Taw通りの様子。現在、ミャンマー全体では多くの店が営業を再開していますが、場所によっては今も店を閉めています。街にはチェックポイントがおかれ軍や警察が携帯電話や荷物のチェックをして、人々の動きを監視しています。

昨今のミャンマー情勢の概要

「アジアのラストフロンティア」と呼ばれ、2011年の民政移行以降、著しい経済成長や国民の生活向上への期待が高まっていたミャンマー。2020年11月の総選挙に勝利した国民民主連盟（NLD）が2期目の政権を発足しようとした矢先の2月1日未明、国軍によるクーデターが発生しました。その後、情勢は一気に悪化し、市民不服従運動（CDM）と呼ばれる非暴力・平和的に民主化を求めるデモが各地で行われてきましたが、国軍の武力行使を伴う激しい弾圧によって、子どもや女性を含む死傷者、拘束者が日々増え続けています。また、銀行が長く閉鎖しており、商取引ができない、現金の引き出しが制限されるなどの経済的な混乱が見られるほか、携帯電話の通信やインターネット遮断により、情報入手や発信が難しく、市民の日々の生活にも深刻な影響が出ています。また、3月下旬からはカ

レン州、カチン州、シャン州などの少数民族地域での国軍と少数民族武装勢力の衝突も報告されており、避難民が急増。その一部は隣国のタイに一時的に逃れました。この状況に対して、国際社会からの非難が相次いでおり、デモ参加者に対する暴力を非難する国連安全保障理事会の議長声明と、日本も含むG7外相声明が出されました。さらに国軍関係企業に対して経済制裁措置を発動する国も出てきていますが、事態を打開する有効な手立てとなっていません。この状況が長期化する中、市民の困窮が都市部を中心に広がっています。国際社会、国家間の表立った支援が難しいなかで、ミャンマー市民に食料支援や必要な物資を届け、市民に対する暴力を直ちに止めるよう声を上げられるのは、国を越えた市民社会の連帯です。その中で、日本のNGOとして果たすべき役割が問われています。

設立40年キックオフイベント

シャンティは2020年12月10日の設立記念日をもって、設立40年目を迎えました。昨今の激しい社会情勢の変化や、新型コロナウイルス感染拡大に対する、各国の対応が喫緊の課題となるなかで、シャンティとしてはこれまでの活動の総括と、今後の在り方を模索する時期を迎えています。そこで、本イベントの第1部ではNHKの「ニュースウォッチ9」元メインキャスターの有馬嘉男さんに進行をお願いし、シャンティの原点をひも解きました。第2部では、各国とオンラインでつなぎ、活動の最前線に立つ職員によるレポートをお届けしながら、有馬さんと共に未来への展望を考える時間となりました。今回は、第1部の対談、第2部のトークセッション、そして事務局長によるメッセージをお届けします。

第1部 対談

「現場主義を貫いた40年」

「ニュースウォッチ9」元メインキャスター

有馬嘉男さん

PROFILE

1990年にNHK入局。フランクフルト支局長、シンガポール支局長など海外勤務を経て、NHKの平日夜のニュース番組「ニュースウォッチ9」のメインキャスターに就任。シャンティの設立者・有馬実成氏の子息でもある。



常務理事

八木澤克昌

PROFILE

シャンティ国際ボランティア会アジア地域ディレクター。シャンティの前身である曹洞宗東南アジア難民救済会議にボランティアとして携わって以来40年間、タイ、ラオス、カンボジア、ミャンマー（ビルマ）難民事業事務所の所長などを歴任。

シャンティの原点に立ち返る

有馬…八木澤さんがカンボジアの難民キャンプで活動されていた当時、私も現地にお邪魔しました。タイ軍兵士がライフルをバンと撃つと、子どもたちが一斉に地面に伏して、という状況でした。まさに身の安全が担保されていないんだと強烈に感じましたが、当時のシャンティの活動は本を子どもたちに届ける図書館活動でした。なぜ図書館だったのでしょうか。

八木澤…カンボジアではボル・ポト政権時に教師や知識人、作家や医者や殺されてしまい、本もありませんでした。これを何とかしようと図書館活動を始めたところ、子どもたちが、蚕が桑の葉を食べるように本を読み、大人たちもその様子を見てやはり本が必要なんだとわかりました。有馬さんのお父様は、難民問題の本質は「民族の文化的アイデンティティーの喪失の危機」だと言っていました。難民の方々は肉親を殺され、身一つで難民キャンプにたどり着きます。その時に彼らを持っているのは、教育によって身に付けた知識、手に付けた技術、そしてカンボジア人としての文化的誇りや民族のアイデンティティー。これらを決して失わないように、言語を守り、図書

館を造り、本を印刷して出版するという文化的な支援を始めたのです。有馬…本は楽しみを与えるだけでなく、祖国の文化を教え、国の再建につながる。それを実践してきたということですね。八木澤…たとえば、今アフガニスタンでは女の子たちが教育を受けて、先生やスタッフが絵本の読み聞かせをしています。これは奇跡に近いことです。シャンティの40年間の誇るべき成果だと思っています。

有馬…私は父親の背中を通じて、世界を見たいと思うようになりました。時に背中から湯気をあげるようにして、時に大きな声で、時に猫なで声で、活動への理解や資金源を得るために、毎晩深夜まで金策の話をしていたのをよく覚えていました。八木澤…私がよく覚えているのは、プレスリリースを作っているお父様の姿勢です。マスメディアなどを通じて、ストーリーや文化、社会の背景を伝えていくことが重要であるということを教わりました。このことは私がかろうじて40年間活動を続けられている原点の一つになっています。発信することで、政府や国連、ひいては社会が変わっていく。これからも向き合っていきたいと思っています。

第2部 トークセッション

「変動するアジアの今」



八木澤克昌



有馬嘉男さん、山本英里事務局長

シャンティが向かう未来

有馬…昨年4月、コロナ禍で緊急事態宣言が出た際、WHOのディレクターが「紛争地や難民キャンプでのパンデミックが一番心配だ」と言っていたのですが、その間の変化を番組でほとんど伝えることもなく、後回しになってしまっているというのが現実です。メディアで焦点が当たらないということが問題だ

と思いました。一方で八木澤さんや山本さんをお願いしたいのは、メディアの取材が届かない場所について情報発信してもらいたい。現地にネットワークがあるNGOならではの情報をもって、メディアを焚きつけることをぜひやってほしいです。山本…NGOも伝えていくという役割を果たさなければ、社会を変えていくということは難しいのではないかと感じています。八木澤さん、NGOの役割、使命は何だと思えますか。八木澤…社会変革は私たちの使命であり、そのためには事実や現実に応じて自分を変える、触媒になるということが大切だと思います。主役は最も苦しんでいる人、または社会の底辺にいる人で、彼らにどうやってスポットを当てるか、というプロセスの大切さを改めて感じました。山本…これからのシャンティを背負っていく後輩たちにメッセージがあれば教えてください。八木澤…「ミッション」「バッション」「ドリーム」があれば、必ず何かができる、解決できる。これは有馬さんのお父様が40年前に言った言葉です。私たちシャンティは「社会の底辺にうごめく存在であるべきだ、ウジ虫になりましょう」と。社会の底辺の人たちと共に生き

るのがシャンティの使命。あきらめないで行きましょう。有馬…番組では立場が弱い人、困難にある人のニュースを伝えることが多いです。でもそれを伝えるときは、セーフティーネットから漏れた人々たちを救おうとする人たちがいること、その人々たちの情報発信によってニュースを伝えたいということ、必ず伝えたいと思います。この困難下でもシャンティの活動が継続しますように、さらに発展していきよう、祈念しております。

これからの40年に向けて

山本英里

社会情勢の変化に伴い、NGOに求められる役割や期待が今、変わりつつあります。常に人々に寄り添う姿勢は変わりませんが、40年の経験と知見を経て、私たちはさらに成長していきたいと思っています。シャンティは読み聞かせや読書推進など、「本」をキーワードとした教育文化支援の専門集団として、国際社会における存在感をより示していきたいと思っています。そして国内の問題にも目を向け、国内外の問題に対し地球市民として取り組んでいきます。シャンティのミッションである「平和な社会の実現」を成し遂げるため、行政、会社、宗教法人、さまざまなバックグラウンドを持つ団体、個人などより多くの人たちと手を取り合い、共に地球市民として課題解決に取り組んでいきたいと思っています。

ご視聴はこちらから



教育現場の今

世界には、学校に通えていない子どもが約2億5800万人存在し、そのうち小学校に通っていない子どもは約5900万人います。貧困や紛争、親が働いている間、兄弟の面倒を見なければいけないといった要因に加え、近くに学校がなく、家から遠すぎて通えないということがあります。

シャンティが活動するアジアの国々でも、学校校舎や設備など学習環境が整っていない地域が数多くあります。

カンボジアでは、全国の小学校校数7282のうち175校は、半分かそれ以上の教室で屋根や床、壁に修理が必要な損傷や破損が見られ、飲料水やトイレの設備など水へのアクセスがありません。午前と午後の2部制を実施している小学校は全体の6割強を占めており、教室数の不足が問題になっています。ラオスでは国内の約15%の村に小学校がなく、子どもたちは隣の学校まで数キロ歩いて通学しなければならない状況にあります。アフガニスタンでは、全国の学校1万6532校のうち、半数以上の約8660校は校舎がありません。

シャンティが建設支援を行う学校で

は、各国で定められた学校建設の指標や基準と併せて机や椅子などの必要備品、図書室の整備、トイレの設置などを行い、就学の機会を提供しています。

*出典元：UNESCO Institute for Statistics

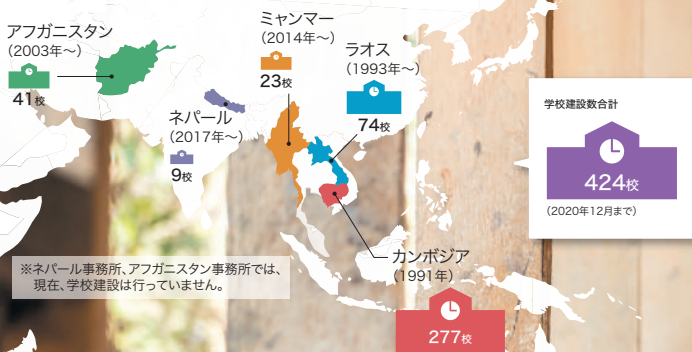


カンボジアの学校建設活動は、内戦で発生した国内避難民、国境の帰還民の支援事業として開始しました



カンボジア・バットンバン州での学校建設 (1992年撮影)

シャンティが建てた学校数



特集

学校に行こう

子どもたちに教育を

シャンティは1991年にカンボジアで最初の学校建設を開始しました。カンボジアでは1975年から4年間続いたポル・ポト政権下で、過酷な強制労働や宗教・寺院の弾圧などに加え、学校教育も否定されました。学校校舎は破壊され、知識人とみなされ教員も殺されました。内戦終結後、人々はコミュニティの核であった寺院を復興させ、ゼロから国づくりを始めました。寺院の呼びかけで学校建設も開始されました。

自分の村に学校がない子どもたちは、何時間もかけて隣村の学校まで通っています。屋根が穴だらけの学校では、雨が降ると授業になりません。

シャンティは、カンボジア難民支援から始まった印刷技術を生かして教科書・本の印刷、配布をするともに、それを使い、学ぶ場となる学校の建設を開始しました。住民と一緒に、地域のニーズに沿った活動を行っています。

4年生と5年生では9科目を習います。公用語はラオス語ですが、村や学校にはカム族、モン族の2つの少数民族がいて、彼らは家では母語を話し、他の民族と話すときはラオス語でコミュニケーションを取ります。授業はラオス語で行いますが、少数民族の言葉しか知らない生徒には母語で通訳もします。教科書の数は十分ではなく、2〜3人で一冊を使っています。教育スポーツ省は5〜10年ごとにカリキュラムを更新しますが、全ての生徒に行き渡るだけの印刷予算がありません。

貸出簿で管理します。他に学校で使うものとして、生徒たちは文具やカバン、靴、制服などは購入する必要があります。平均20万キープから25万キープ(約2300円から2800円)かかります。

この学校では伝統舞踊に関して一般知識を教えるのみですが、多くの学校では踊りを教える女性の先生がいて、先生に感謝を伝える日や新年などの特別な行事、学校間のコンテストで披露するために教えたりしています。

子どもたちの学校生活
ラオス

- ▶ フオイポー小学校
- ▶ ルアンパバーン県、フオイポー村
- ▶ 生徒数68人



① 学校にある運動場 ② 時間割: ラオス語、算数、理科と環境、美術、織物、音楽、体育、英語、道徳教育の9科目を勉強します ③ ゴム飛びをして遊ぶ子どもたち

授業で分からないことがあれば、理解できるまで先生に聞いています。さまざまなジャンルの本を読みたいので、特にラオス語の授業を頑張っています。

生徒の声
ノン
12歳



① 学校建設後に行う維持管理研修の様子 ② 3年生の時間割。4年生から英語の授業が始まりますが、生徒たちは普段からSNSなどで英語に触れています ③ 女子生徒の制服

2013年に運動場に滑り台、ブランコ、タイヤを整備しました。楽しみながら健康になれるので、休み時間はいつもにぎやかです。

制服を買えない場合、同じ色の服で通学することもできますが、学校側は適切な理由でなければ認めないでしょう。

教科書は毎年学校から貸し出し、学年の終わりに返却します。生徒が使うために返却します。学校では先生も生徒も制服を着ます。カンボジアでは曜日ごとに色が決まっており、先生はそれに沿って、月曜日は濃い黄色、火曜日はピンク、水曜日は濃い緑というように、毎日異なる色のシャツを着用します。生徒は白シャツに青ズボン、スカートと、シンプルです。月曜日には1時間の清掃活動があり、その日は私服も持ってきてます。先生も生徒も、制服は自分で購入します。

制靴を買えない場合、同じ色の服で通学することもできますが、学校側は適切な理由でなければ認めないでしょう。

月曜日から土曜日まで、毎日朝7時から17時が授業時間です。人気の科目はクメール語と算数で、この2科目は読解力や計算など日常生活でも必要な知識を養うため、毎日授業があります。4年生からは英語も習います。

体育は1クラスで実施され、1週間に1回行われます。他のクラスも一緒にやりたいので

子どもたちの学校生活
カンボジア

- ▶ ノーリア小学校
- ▶ バッタバン州
- ▶ 生徒数739人 (女子344人)

現地職員コラム



玉利 清隆
ラオス事務所 所長

親が働きに行き子どもの世話をできないため、入学前の子どもたちが年上の兄や姉と一緒に教室に座っているケースをよく見ます。また、授業の開始時間はあてないようなので、先生と生徒の準備が整ってから始める、という感じです。生徒が公用語であるラオス語が分からず、先生とのコミュニケーションが取れていないケースも多く驚きました。その場合、先生が現地語の分かる先生のクラスまで聞きに行くこともあり、結果的に双方の授業が中断してしまいます。

現地職員コラム



加瀬 貴
カンボジア事務所 所長

カンボジアならではのと思うのは、犬などが授業中に教室に入ってくる、チャイムはタイヤの金属ホイールを担当の児童が「カンカン」とならすことです。また、支援対象地は僻地のため留年率や学齢期を過ぎた児童が多く、大人びた児童もたくさんいます。休み時間など、子どもたちの多くが学年に関係なく一緒に遊んでいるのは、社会性を養う上で良いと思います。10年前と比べて、先生方が一生懸命に指導しており、暗記型の授業から児童との相互交流を行う形に変化していると感じています。

クメール語と算数が好き。図書館に行って絵本や農業の本をよく読んでいます。将来は先生になって村の子どもたちに知識を伝えていきたい。

生徒の声
ユン・チー・リン
12歳



ネパールの授業は日曜日から金曜日までで、土曜日は休みです。祭日は地域や民族によって異なりますが、大体40〜62日と他国と比べて多いです。この学校では毎日、全員が参加して朝礼を行います。校庭で体操、国歌斉唱、事務連絡をしてから1限目に入ります。



①タマンさんのクラスの授業風景 ②毎日行われる朝礼の様子 ③制服：制服着用は義務で他の色は認められていませんが、実際は着てこない生徒もいます

5年生では公用語のネパール語、英語、社会、保健体育などと、創造芸術（絵画、民族舞踊、伝統音楽）という科目も習います。生徒たちには社会と創造芸術が人気で、英語はあまり人気がないようです。ラスワ郡の住民の多くが先住民であり、それぞれの母語を

持っていきます。母語は学校では教えないのですが、低学年の子どもたちはネパール語が分からないので、先生が母語で教える場合もあります。教科書は一人一冊あります。新学期が始まる前に学校から無料で生徒に配布し、返却の必要はありません。ノートや文房具は各自で購入するため、年間1000ルピー（900円）程かかります。制服も生徒が買いそろえます。上はシャツ、下は男子がズボン、女子がスカートで、色は上下とも水色と決まっています。制服着用が義務ですが、なかには着てこない生徒もいます。幼児クラス（就学前）に、制服はありません。

現地職員コラム



三宅 隆史
ネパール事務所 所長

教員が一方的に黒板に書いて話す、教員中心・知識伝達型の授業が多いことと、学校に来ない先生がいることに驚きました。幽霊教員というのですが、給与だけもらっています。ネパールの学校制度は、日本の6・3・3制と違い、基礎教育が8年間、中等教育が4年間の8・4制です。基礎教育はクラス担任制ではなく、教科担任制のため、科目によって教える先生が変わります。また生活指導は日本と比べてほとんどなされていません。

教科書に載っている詩や物語を読むのが好きなので、ネパール語の教科書が好きです。放課後はお母さんの手伝いや友達と遊んだりして過ごします。



生徒の声
サヌマヤ・タマン
11歳

子どもたちの学校生活
ネパール
事務所

- ▶ ゴータマブッダ中等学校
- ▶ ラスワ郡
- ▶ 生徒数：315人

子どもたちの学校生活
ミャンマー(ビルマ)
難民キャンプ

- ▶ ミッション系スクールNo.2
- ▶ メラ難民キャンプ
- ▶ 生徒数：約600人

学校では、母語であるカレン語のほか、ビルマ語と英語の3カ国語を習います。他に歴史や数学など8教科を勉強します。生徒たちには、英語が人気です。体育や音楽、美術の科目はありませんが、難民キャンプ内で運動会や歌唱コンテストなどのイベントが行われます。学校では1年間無償で教科書を貸し出しますが、全生徒が一冊使える数はなく、2人で共有してもらいます。学年が終わると生徒たちは教科書を返却しますが、状態が悪いものもあります。また、貸し出す際は事前に、紛失したら罰金を取ることを伝えて注意を促します。昔より生徒数が増え、一人一冊



①教室の様子：難民キャンプ内の校舎は、竹と木で作るようタイ政府から決められています ②地理の教科書：写真は地球の概要や構造について学ぶページ ③学校の手洗い場

教科書を持つことが難しくなりました。また、資格や経験を持つ先生も少なくなっています。制服はとてもシンプルで、白シャツと黒のスカート、ズボンです。そのため生徒たちは、少なくとも1着は制服を持っていますが、もしそろえられない場合

合でも家族から適切な理由を聞ければ、学校に通うことができます。教育施設を含む難民キャンプ全体に給水施設が設置されており、学校ではトイレを使用の際は、公共水栓から水を運んで利用しています。

現地職員コラム



セイラー
ミャンマー(ビルマ)
難民事業事務所 副所長

難民キャンプの学校では、母語であるカレン語のほか、ビルマ語、英語の3言語を習いますが、一部の学校ではタイ語も教えています。校舎は基本的に竹と木で作られるため、シロアリや悪天によるダメージが大きいです。また、生徒は長い机と長い椅子に3〜5人で座ります。私が過ごしたタイの学校では都市部も農村部も、基本的に生徒1人につき机と椅子が1セットあり、違いが見られます。

世界のいろいろな場所について知り、想像することができる地理の勉強が好きです。この科目は英語で習うので、私にとってより興味深いです。

生徒の声
アウン・
トゥン・トゥン
16歳





ネコとサル



1

お腹をすかせた2匹のネコが食べ物を探していると、道端にお菓子を見つけました。2匹が奪い合うと、お菓子は2つにちぎれて片方が大きくなってしまいました。



2

そこに1匹のサルが通りかかりました。ネコたちはサルを呼び止め、2つのお菓子を同じ大きさにしてほしいと頼みました。



3

サルはお菓子を受け取ると、大きい方のお菓子里に食いつきました。すると、もう片方よりも小さくなってしまいました。「あれえ、まだ同じ大きさにならないや」。サルはもう片方も食べました。



4

ネコたちは「それ以上食べたら僕たちの分がなくなっちゃだよ!」と言いましたが、サルは「君たちの頼みをかなえるためにやっているんだ」とお菓子を放しません。



5

ネコたちはお菓子を返すように言いましたが、サルはお菓子を食べ続け、もっと小さくなってしまいました。

「よし、これで同じ大きさになりました」。サルは笑いながら帰っていききました。



6

たくさん欲しがってばかりだと、このネコたちのようになってしまうのです。ケンカさえしなければ、もっと大きなお菓子を食べられたのに。



理事
松永 寛道
静岡県・宗徳院 住職

やがて「ジャンティなんかもういらぬんだ」と言われるような、そんなジャンティな社会がいつか実現されることを愚直に信じ続け、非力ながらも共に学んでまいります。



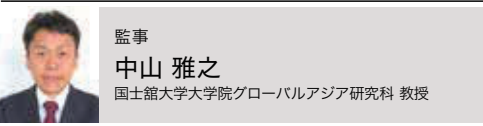
理事
山本 英里
ジャンティ国際ボランティア会 事務局長

“ひんてい水滴岩うが”を胸に、40年のさらなる先を歩んでまいります。一人でも多くの方がこの活動に参画してくださることを願っています。



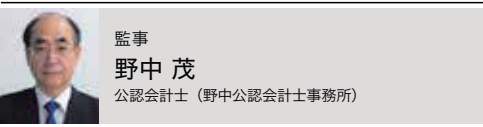
理事
横澤 敬雄
長野県・東昌寺 住職

ご縁を頂戴致しまして理事に選出されました。国内外でご活躍されておられます職員・スタッフの皆さんの一助になりますように関わられたらと思います。よろしく願いいたします！



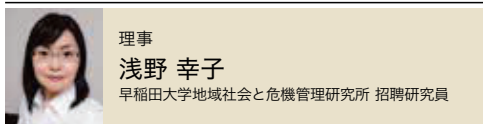
監事
中山 雅之
国士舘大学大学院グローバルアジア研究科 教授

世界が変わるなか、国際協力はどこへいくのか。導きの星である組織のミッションを今一度見つめ直し、柔軟な強靭性を涵養する組織づくりのお手伝いができればと思います。



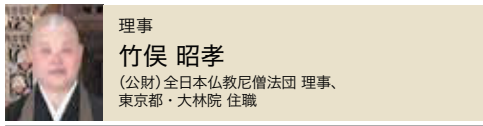
監事
野中 茂
公認会計士（野中公認会計士事務所）

コロナ禍の中、NGOを取り巻く内的・外的な環境は一層厳しくなっています。改めて「本の力を、生きる力に！」の原点に立ち返り、コンプライアンスとガバナンスに気を配ってまいります。と思います。



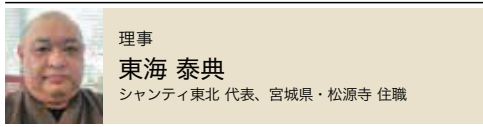
理事
浅野 幸子
早稲田大学地域社会と危機管理研究所 招聘研究員

多様性の視点に立った防災・減災の啓発に取り組んできましたが、ジャンティの国内外の支援活動の現場に学びつつ、お役に立てる機会を探していきたいと思えます。



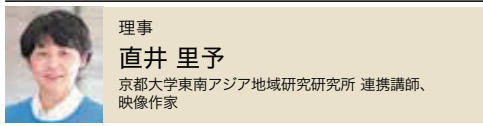
理事
竹俣 昭孝
(公財)全日本仏教尼僧法団 理事、
東京都・大林院 住職

この2年間ジャンティの活動から多くのことを学ばせていただきました。ジャンティな社会の実現に向けて、皆様と共に、心を寄せて、少しでもお役にたてるよう努めてまいります。



理事
東海 泰典
ジャンティ東北 代表、宮城県・松源寺 住職

ジャンティ東北の主任として、2,500の東北管内寺院（曹洞宗）に活動のご理解とご協力を進めてまいります。



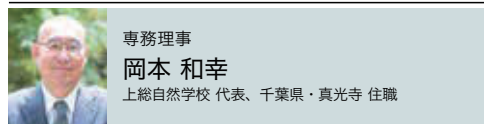
理事
直井 里予
京都大学東南アジア地域研究研究所 連携講師、
映像作家

「共に生き、共に学ぶ」、ジャンティの現地に根付いた活動に、参加できることを大変うれしく思います。子どもたちが、心穏やかに過ごせる社会づくりに少しでも貢献できれば幸いです。



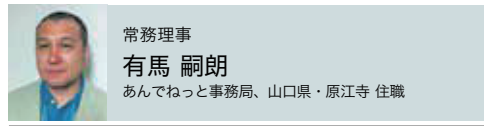
理事
早坂 文明
宮城県・徳本寺 住職

30周年記念ソング「ジャンティ心のかけはし」を作詞した。地球上「ありがとう」の言葉は違っても、心を結ぶ架け橋になるというテーマだった。これからは「ありがとう」は魔法の言葉と信じて活動したい。



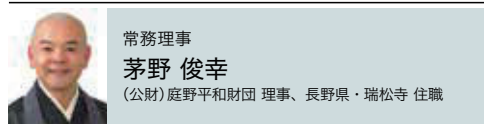
専務理事
岡本 和幸
上総自然学校 代表、千葉県・真光寺 住職

互いの尊厳を認め、尊重し高めあひながら、同じ時代を共に生きる。ジャンティの地道な活動を、多くの方に知っていただき、ささやかであってもジャンティ(平和)な世界に向かっていけるよう、職員そしてご支援者の皆様と共に歩んでいきたいと思えます。



常務理事
有馬 嗣朗
あんでねっと事務局、山口県・原江寺 住職

行には願いがなければならぬ。願いがあるから行ずる。誰もが願う社会とは。その社会づくりとは。ジャンティはきつとつくりまします。



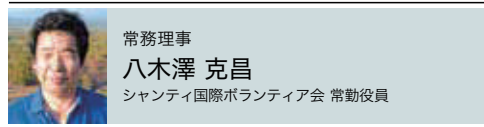
常務理事
茅野 俊幸
(公財)庭野平和財団 理事、長野県・瑞松寺 住職

「古を裂き、今を破る」古(いにしえ)だけでなく常識や言葉、さまざまならわれからいったん切り離し、そうして今のジャンティの進む道を見つめ、感じて、判断し、活動をさらなる高みに共にもっていったらと思えます。



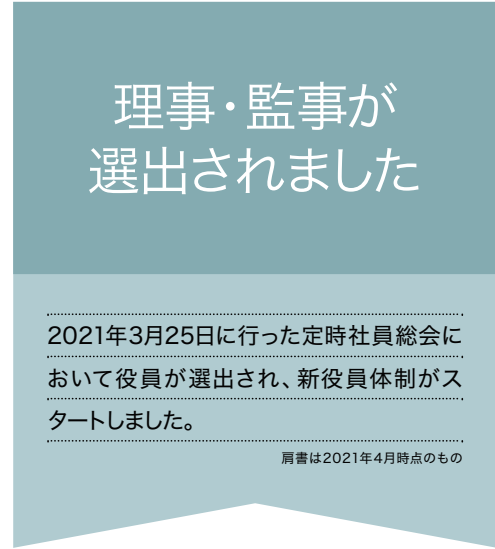
常務理事
秦 辰也
近畿大学国際学部 教授

コロナ禍での国際協力が問われるなか、世界では民主化やエスニシティ問題がより深刻化しています。ジャンティのいう「平和」はどのように実現すべきなのか、SDGsの目標16を念頭に共に行動していきましょう。



常務理事
八木澤 克昌
ジャンティ国際ボランティア会 常勤役員

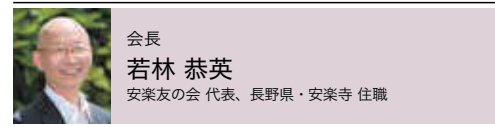
使命の「ミッション」、情熱の「パッション」、夢の「ドリーム」。頭文字を略して「MIPD」。コロナ禍のアジアの現場から国境を越えて「伝える」「つなぐ」「創る」を実現したいです。



理事・監事が 選出されました

2021年3月25日に行った定時社員総会において役員が選出され、新役員体制がスタートしました。

肩書は2021年4月時点のもの



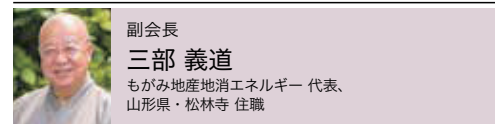
会長
若林 恭英
安楽友の会 代表、長野県・安楽寺 住職

人間形成に大切なのはかたよりのない学びの場があること。そのともしびは紛争などで吹き消されそうになるけれど、皆様と共に学びの灯火をともし続けたい。



副会長
神津 佳子
株式会社 KOZUstyle 代表取締役

世界中のすべての子どもも大人も、「生きるってこんなにわくわくすることなんだ!」と実感できる世の中にするため、36年間ジャンティの活動に関わってきました。ご支援者の伴走に深く感謝いたします。



副会長
三部 義道
もがみ地産地消エネルギー 代表、
山形県・松林寺 住職

ひとの幸せを喜べる人は幸せな人、ひとの幸せを喜べない人は幸せになれない人、ひとの不幸を喜ぶ人は不幸な人。この世界が幸せな人であられますように。



① 2019年1月、大洗海岸で ② 社員もマイボトルを携帯 ③ 地方自治体とのプラスチックごみ削減に関する協定締結
④ 2019年、社員がネパールの小学校贈呈式を訪問

ウォータースタンド株式会社
代表取締役

本多均

水道直結ウォーターサーバーのレンタルサービスを通じて、安全安心な水を供給するウォータースタンド株式会社の本多さんをご紹介します。近年、気候変動による災害リスクの増大やCO₂排出など環境汚染が進む中で、さまざまな命の源である「水」を守り、次世代により良い地球環境を引き継いでいくための活動を、地方自治体や地域社会と共に取り組んでいます。創業以来、常に根幹にあるのは「事業を通じて社会に貢献する」という思いです。



本多均さん

学校建設にかける思い

シャンティのことを知ったのは、家の近所にある東光寺（埼玉県さいたま市）の住職との出会いがきっかけです。ある時、朝の散歩コースである東光寺に置かれていたシャンティの募金箱や事業資料を見て、アジアの国々で子どもたちのための学校を作っていることを知りました。弊社のミッションにもある「未来の世代のために」という思いがリンクし、活動に参加しています。私は、学校が建てられることによって学びの場（学校）が、今学校に通う子どもだけでなく、これから生まれてくる子どもや就学前の子どもたちにも継続して生かされると考え、学校建設に特に関心があります。10年、20年と継続して使われ、子どもたちの学びや成長を支えていくことを願っています。

これまでに2回、弊社の社員がネパールとシャンマの学校建設地を訪問して小学

校の贈呈式に出席しました。そこで、現地の学校関係者や生徒たちと話したり、交流したりする機会がありました。また、海外事務所の所長が一時帰国された際には、現地の学校や子どもたちの様子、学校建設事業についてお話を伺いました。実際に現場で活動されている方の声を聞くことは、充実した時間で、貴重な経験だと感じています。シャンティには、まだまだ学校へ行けない多くの子どもたちの学びの場を作っていくってほしいと思います。

忘れられない言葉

30代のころ、日本以外の国について知りたいという好奇心から日本青年会議所の国境なき奉仕団委員会に参加し、クワアチアやシャンマに赴きました。現地では食料支援や難民施設での遊具作りなどをしました。その中で出会った戦争孤児の子どもに将来の夢を尋ねたところ、「ソル

ジャー（戦士）」という返事が返ってきました。戦争で殺された親のあだを討ちたい、という彼の言葉に衝撃を受け、二度と戦争を起こさないための活動を意識しました。

次世代に美しい地球環境をつなげていくために

教育格差や食料不足、環境汚染などさまざまな課題がある中で、これからの社会を生きていく子どもたちは相当不安だろーと思えます。私たちは、「コア事業である水事業を通じて、子どもたちが安心して未来を創りたいと考えています。

世界的にペットボトルで水を飲む文化が浸透しつつある中、2050年までに海洋のプラスチック重量は魚の重量を超えるという予測があります。安全安心なペットボトル飲料水の消費が実は環境破壊につながるという現実をしっかりと見つけ、行動しなければ、この問題は必ず次世代の

子どもたちに大きな課題を残すでしょう。

私たちはSDGs達成と環境保全に貢献するため、2030年までに日本の使い捨てプラスチックボトルを30億本減らすことをミッションに掲げています。公共施設や民間施設に給水スタンド（給水スポット）を設置し、マイボトルへの給水を進めるなど、地方自治体や地域社会と共に取り組みを行っています。弊社の社員の一人が「水筒を使えばプラスチックボトルを買わない、捨てる必要がない」と声を上げ、マイボトルを携帯し始めたことが社外にも広がっていきました。他にも、地域の活性化につながる活動として地元のプロスポーツへの支援や、さまざまな環境ボランティアにも参加しています。

22世紀を生きていく未来の子どもたちにより良い地球環境をつなげていけるよう、全力で取り組んでいきます。

シャンティからのお知らせ

コロナ禍のシャンティの取り組み

シャンティが活動する、カンボジア、ラオス、タイ、ミャンマー、ネパール、アフガニスタンでは2021年以降も新型コロナウイルスの感染者が報告されています。感染拡大防止のため、各国で出入国制限措置のほか、ロックダウンなどの外出禁止や移動制限措置が取られています。シャンティは、各国政府の通達に従い、在宅勤務、オンラインでの打ち合わせを取り入れ、職員や事業関係者の安全を最大限配慮する形で、子どもたちの教育の機会を届ける活動を継続しています。

人事のお知らせ

●退職

木村 沙弥香 事業サポート課 海外事業担当補佐 (4/13付)
黒田 弘啓 事業サポート課 海外事業担当
(ミャンマー国境支援事業事務所) (4/30付)
高橋 布美子 クラフトエイド課 クラフトエイド担当 (4/30付)
栗本 愛 地球市民事業課 課長補佐 緊急救援
(国内・海外ER) (5/31付)
加藤 由里子 地球市民事業課 国内事業担当 (5/31付)
山本 栄吉 総務人事課 課長 (5/31付)

●入職

テラワリ ケイ 地球市民事業課 チーフ (5/10付)
中井 康博 地球市民事業課 国内ER担当 (5/10付)

作り手の想いが詰まった商品が届きました

2021年、クラフトエイドの新商品が完成しました!今年タイ北部チェンマイにある、山岳民族の人々の生活を支える生産団体TTCと共に、カレン族、リス族、ラフ族のバッグやポーチを製作しました。詳しくは同封の「クラフトエイド2021カタログ」をご覧ください。



リス族 重ね縫いのバッグ

カレン族 手織りのバッグ

●異動

荒川 千尋 地球市民事業課→クラフトエイド課
クラフトエイド担当 (3/1付)
許 東音 アフガニスタン事務所経理業務アシスタント→
アフガニスタン事務所食糧支援担当 (3/15付)
竹本 恭子 総務人事アシスタント→総務人事課 総務担当 (3/15付)
長内 淑恵 広報リレーションズ課アシスタント→海外事業課
海外事業担当 (4/1付)
古賀 智子 総務人事担当→総務人事課 チーフ 総務人事担当 (4/1付)

編集後記

随分昔の話ですが、私が通っていた小学校では月に一度、図書館の司書さんが本の読み聞かせをしに来ていました。教室の電気を消し、ろうそくをともして話が始まると、おはなしの世界に引き込まれます。最後に、その月が誕生日の人がろうそくを吹き消すというお楽しみもあり、今でも思い出に残っています。

(佐々木ひろみ)

シャンティ 2021年夏号(通巻311号) | 2021年7月1日発行

発行人: 若林恭英
発行所: 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
〒160-0015東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3階
TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220
WEB: www.sva.or.jp E-Mail: info@sva.or.jp
編集人: 山本英里、鈴木晶子
編集・制作: 株式会社社文化工房
印刷: 株式会社サンエー印刷

当会へのご寄付は、所得税、住民税、および法人税、相続税の優遇措置が受けられます。
©Shanti Volunteer Association.
「シャンティ」は、FSC®森林認証紙にノンVOCインキ(石油系溶剤0%)で印刷しています。



川畑 嘉文(フォトジャーナリスト)

Yoshifumi KAWABATA

ニューヨークの雑誌社勤務時代に9.11を経験し、記者職を捨てて写真の道に進むことを決意。2002年、会社を退職しタリバン政権崩壊後のアフガニスタンを訪れ取材を行った。2005年フリーランスのフォトジャーナリストとなり、世界中の難民キャンプや貧困地域、自然災害の被災地で取材を行い、雑誌や新聞などに写真と原稿を寄稿している。



慣れないカメラを向けられ、はにかむ少女たち。

女の子だって勉強したい!

急峻に削られた山あいの麓に茶褐色のテントがありました。中には絨毯が敷かれ、子どもたちが胡座をかいています。男女の割合は半々くらいでしょうか。女の子たちは一様に頭をスカーフで覆っています。

ここはアフガニスタン中部にある、バミヤン渓谷の小学校。2002年、同国では米軍の侵攻によってタリバン政権が倒れ、政府によって禁止されていた女子教育が再開されました。国民が新しい時代の到来に目を輝かせていた瞬間でした。

あれから約19年。反政府活動を活発化するタリバン勢力の影響で、山岳部の一部地域ではまた女子教育が禁止されてしまいました。学校に通うことは、この世界では非常に特別なことなのです。



上: こちらは男子校。奥には仏跡が見える。
下: バミヤン渓谷には日本人と同じルーツを持つハザラ人が多く暮らす。

